

新しく生きる

津守 眞 (M)

津守 房江 (F)

久しく『幼児の教育』にご無沙汰しました。

M 退院して五か月がたちました。私はその間に「新しく生きる」ということを、何度も考えました。脳の出血のために突然字が書けなくなつたのですから、その中でどう生きるか。「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」

という聖書の言葉を、何度も思いめぐらしていました。

『たじろぐということ』

M そこで出会った『たじろぐ』という言葉は、ずっと私の現実の生活を進めるうえで大事なキーワードになりました。

F 向こうからやってくる車にあなたが何十メートルも前から立ち止まって、体が動かなくなることを主治医に話したときに返ってきた言葉ですね。

M 脳神経外科を専門とする医師が、高度な画像診断（CT、MRI）だけでなく「たじろぐのですね」と普通の言葉で言われたことは、不思議な気がしたのです。でも、そのことは前方から来るものに対するおびえだし、未来に向かう自分のおびえかとも思いました。さりげなくこのような言葉で言われ、自分の問題を意識化できたので、心がずっと軽くなりました。

私はリハビリの先生の本に行つて字の練習をしました。でもうまくいかないのです。たとえば、四月十一日のノートには「よ」という字を書こうとして十度以上書き直してしまつた。とても疲れた。」と平がなで書いてあります。障碍がをもつ

愛育養護学校（以下愛育）の子どもたちと同じに私も一つことにこだわる自分があります。主治医からは「できないことを無理にやろうとしない、できることからやっていくように」と言われました。これは私たちが子どもたちにいつも心掛けて、保育の中でやってきたことでした。自分の問題と保育のことが結び付いた出来事でした。子どもたちと自分がつと近い存在になりました。

保育の場に出ると

最近では愛育の現場に一人でバスに乗つて一週間に一、二回行きます。

M 私にとつても家族にとつても、愛育に行くことは安心なことです。役に立つかどうかは別として、子どもや保育者の中においてうろうろしているだけで私は元気になれるのです。保育の場が最近

活気に満ちていることが何よりうれしいですし、リハビリにもなります。

私は保育に出たとき、出会ったところから始めるということでは以前と同じです。

しかし、その日その日は「新しい自分」になっているのです。たじろがずにかつと飛び込んでそのことをやる。それが大事だと思うのです。

前方から来るものに対してちよつとたじろぐけれど、おびえずにかつとやる。それでいいのだと思つてやる。こうして現場に出れば、いろいろな子どもや大人と出会います。一日現場で過ごせばそこに記録ができます。

F 記録はどうしているのですか？

M 書くときがぐしゃぐしゃになってほかの人に読めないものになってしまいます。書こうとしている内容は自分にはわかっているのですが、大変矛盾することだが、このように考えていいのかた

めらう気持ちがある。しかし保育の実際は思ったことをやってみて、訂正しながら先に進むことでしょう。

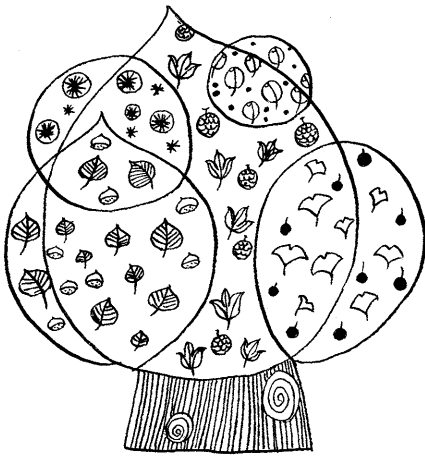
昨日の話と記録

たとえば、金の紐と銀の紐とを子どもがほどこき出したとき、私はそんなにきれいに巻いてある紐を出してしまつていいのか迷いながら見ていました。結果とすると全部ほどいて、ぐしゃぐしゃになった紐の山の上に座つてその子が「孫悟空」と言つた。そこまで付き合つてみて、これでよかつたと私は自分で納得しました。

F その子にも紐を出すことに迷いがあったのではないのでしょうか。

M そうね（ほほ笑む）

F あなたは、子どもに癒してもらつていたので



すね。

M こういうことでは以前と同じようですが病氣前と後とは比べてみると、そこでたじろがずにやるということでは、自分が前進しているのを感じます。

F 昨日、愛育から帰って、服も着替えずに私に金と銀の紐の話をして子どもが「孫悟空」と言っ

たこと、王様のように見えたことを話しました。

一時間以上も話し、その後で、ノートにミミズのはったような字で(笑い)「孫悟空」のことを書きましたね。それくらいその子どもが堂々としていたことが、心に響いたのでですね。

M お母さんにもこの子が立ち去った後で話したところ、子どもが遊びの中で活気と自信をもったことを理解してくれました。母親とも共有することができました。

F あなたは愛育に行っても「何も役に立てないが」と言っていたけれど、自分自身にとっても、周囲の保育者や親にも何ができるかではなく、前向きに生きようという姿勢が伝わっているのでしょう。

M 新しい一日が本当にうれしい日でした。

(保育研究者)